

消防団たずね歩き

東灘消防団 住吉第2分団

分団長 西浦 和也

『東灘消防団 住吉第2分団紹介』

私が所属する住吉第2分団は、国道43号線南側、旧呉田幼稚園前に詰所を構えています。管轄エリアは、住吉本町（西部）、住吉宮町（西部）、住吉南町、住吉浜町を担当しています。南部は海に面しているため、地震時の津波や台風時の高潮などに対する警戒が必要な区域もあります。中心部は住宅が密集しているため、年末警戒などで警戒を実施しています。

活動は、防災福祉コミュニティを通じて地域住民の方、各町自治会、各地区協議会の方と連携し防災訓練を実施しています。また、地域行事の警備も行っています。

通年で、団員の技術の向上を目的として、小型動力ポンプ操作、ホース延長、規律などの訓練を行っています。

『消防団に入ったきっかけ』

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災、私はまだ高校2年生でした。発生直後は、食器棚やタンスが倒れ、物が散乱している状況で、自宅周辺の被害はあまり感じられませんでした。消防団員で出動した父から被害の甚大さを聴きました。その中で父から「友達の家が崩れて生き埋めになってるぞ!」と、言われた瞬間に体が反応し人命救助に参加し、消防職員や消防団員の活動を目の当たりにし、私も高校卒業したら消防団の一員になろうと決意しました。

『火災現場での体験』

火災現場での消火活動は、消防職員が放水し、消火後のホース撤収作業を行います。その中で、ホース1本巻の方法を新入団員にアドバイスしている時に、かつて先輩団員さんに自分もよく教えてもらったなと思い感慨深いです。

『おわりに』

住吉第2分団は、団員数が少なく活動が限られています。なかなか団員が入らないのが現状ですが、入団促進の広報活動を継続して団員を増やして行きたいと思っています。

6月には、2名が体験に来られたので入団してくれたら良いなと思っています。

これからも、訓練をしっかりとって、地域の安全・安心を守ります。

